



平成 25 年 2 月 1 日 第 2 卷(第 42 号)

発行： 東京都新宿区住吉町 8-20 四谷チンゴビル 2F
災害対策本部 TEL (03)3351-5038
FAX (03)5366-1058
mail:dsstsw@jaswhs.or.jp

*** 目 次

1. 現地支援活動報告
2. 現地感想文
3. 災害対策本部からのお知らせ
4. 事務所感想文



中瀬から河口付近を望む。旧北上川と日和大橋・日和山。

— 現地石巻 photo —

*** 1. 現地支援活動報告

活動期間:2013年1月13日~1月15日

中辻 康博 (東京都 豊島区医師会)

現地担当者としての勤務を離れてから2回目、私が継続的に関わっているケースと、定期訪問が必要な住民のケースについて、協力員活動を行ってきました。

時の流れとともに変わっていくもの、変わらないもの、「こんなマンションあったかな?」「新しいお店がオープンしている」など、現地担当時には何気に気づけなかったものも、違った視点で感じることができました。

また、今回活動2日目には大雪が降り、積雪10数cmの石巻での生活を経験、自宅訪問するにも車移動が危険な状況で、生活の不便さも感じるとともに、訪問したお家でも、玄関などは底冷え状態、初めて協力員として活動した2月以来の「石巻の冬」を感じました。(在宅被災者世帯の)フォローでは、支援・定期確認・見守りが未だ必要なケースもある一方で、現地関係機関に繋がり、終結を迎えつつあるケースもたくさんあります。元現地担当として、日本医療社会福祉協会としては在宅被災者だけでなく、仮設住宅も含め、現地機関と連携した活動をこれからも継続していきたいと思います。

石巻にも、厳しい寒さの季節が訪れましたが、大雪の翌朝、小学校の校庭で無邪気に雪合戦をする子供たちの笑顔を見て、少しホッとできたような気がします。

【P.S】

ソーシャルワーク活動する前日に石巻入りし、昨年の10月休みを利用してダイビングをした思い出の女川町竹浦でビーチクリーン活動に参加しました。海中を掃除するダイバー班と、浜を掃除するビーチ班に分かれて掃除、まだまだ津波によって流された生活用品で溢れていました。

ひとつひとつ、できることはまだまだあることを実感。ご縁があって「帰れる場所」となった石巻・女川、これからも関わっていきたくないと強く思いました。

<参加を検討している方へのメッセージ>

現地に行ってみないとわからないこと、現地について初めて感じることもたくさんあります。時間の流れとともに、支援する生活問題の内容も様々に変化していきます。

もし、機会があればぜひ協力員活動にご協力ください。



中瀬から対岸の湊方面を望む。

— 現地石巻 photo —

*** 2. 現地感想文

*** 1/23 浜本 あゆみ (大阪府済生会野江病院)

一日目。改めて震災の与えた影響力の大きさに驚き、ショックを受ける。またそれだけでなく、復興に向けて日々前向きに進んでいる方々の活動や生活の様子を知り、私たちがソーシャルワーカーとしてお手伝いできることを一生懸命に取り組まなければと強く思う。

二日目。継続フォローとなっている方のご家庭へ訪問させて頂いた。自分の通常業務と違い、アウトリーチしてこちらからニーズがないかを聴くというスタンスなので新鮮に感じた。また、初めてお会いする方のお宅に上がりお話を聴かせていただくことになるので、その前提となる信頼関係を構築していくことの難しさも感じる事ができた。実際に訪問し、家の状況や家でのクライアントの表情・様子、家族とのやりとりの様子などといった生活の様子を目で見て、お話を直接聴くことで初めて知れる、できることがたくさんあると痛感した。クライアントの健康状態から家族が抱えている思いまで、普段の業務では気づけない色々な見えてくるものがあり、それがソーシャルワーカーが訪問することの意味や意義につながるのではないかと考える。

三日目。二日目と同様に継続フォローとなっている方のご家庭へ訪問させて頂く。母子家庭のケース。引きこもり傾向のあるクライアント(子)の求職状況について確認したかったが、会えなかった。震災前から無職で求職活動中とのことだが、状況は変化ない様子だということが母との訪問面接の結果、分かった。働きたくても働けないという状況なのか、そのようには思っていないのかなど、クライアントの気持ちを聴けたらと思う。この方のように震災の影響に関わらず、生活の中で何らかのニーズを抱えているクライアントが居るという事実にも目を向けていく必要もあるのではないかと思った。

今回の被災地支援を通して改めて気づいたことは、ソーシャルワーカーとしてできることは、まず目の前にいるクライアントの声(言語性も非言語性も)を聴くということだ。次にこれからもこの支援活動をクライアントのニーズがある限り、何らかのかたちで継続できることが重要であると思う。クライアントの中には、長期的な関わりの中でクライアントのペースで少しずつ生活を再構築されていく方もおられるのではないかと思うからだ。また自分自身としても、このような貴重な機会を生かして今後自分なりに出来る支援(お手伝いできること)を実践していきたいと思う。

(活動期間:1月17日~1月19日)



早朝の1月17日 阪神淡路大震災追悼集会。

*** 1/23 石井 奈津子 (埼玉県 埼玉県立小児医療センター)

1.初めに:

石巻出身の知人に紹介していただいた NPO の関係で、2011 年 5 月より、概ね月 2 回程度の頻度で石巻市内の避難所、及び仮設住宅に訪れていた際に、「医療ソーシャルワーカーによる相談案内」のチラシを見かけていましたが、2012 年 4 月に初めて埼玉県内で医療ソーシャルワーカー職に就き、2012 年 5 月に東京都内で参加した新人研修にて、それが日本医療社会福祉協会の活動であることを知り、是非とも参加したいと考えていたものの、他職種からの転職でソーシャルワーカー 1 年目なので、まずは院内での業務、医療ソーシャルワーカーとしての業務に慣れることが課題であったためこの時期になってしまいました。今回初めて参加をさせていただきました。

2.体験した内容:

当初の予定では、水曜日にいつもの NPO の活動に参加し、木曜日からの合流予定でしたが、現地スタッフの皆様のご厚意により、水曜日の朝から中里サポートセンターで合流させていただき、現地の依光さんからオリエンテーションを受けた後、早速、ささえあいセンターという複数の仮設住宅の拠点への訪問に同行させていただき、自治会運営や仮設住宅内でのコミュニティに関する協議に同席させていただきました。

2011 年 10 月に避難所から仮設住宅に移行して 1 年 4 か月。当面の暮らしは落ち着いてきて、外部からの支援を受けるといよりも、住民主体となったコミュニティ形成が重要になってくる時期で、先行きの見えにくい不安の中で住民同士でのトラブルも起こりがちであることを日頃から感じていましたが、社会福祉協議会の見守り隊の方や、スタッフの方と共に情報共有し、住民の方の主体性を引き出す関わり方や、1 人 1 人の関係性に配慮した言葉かけのタイミング等について検討され、地域の見守り体制が出来ていることに頼もしさを感じました。

2 日目の 1 月 17 日(木)は、阪神・淡路大震災からちょうど 18 年ということで、早朝より石巻市内でも追悼イベントが行われ、現地の久保木さん・富永さん・依光さんと一緒に参加させていただきました。当時の経験が今回の災害に生かされたように、今回の災害の経験を風化させることなく、後世に受け継いでいくことが現在を生きる自分たちの役割だと感じます。この日より大阪チームのお二人が合流し、専門職としての経験を積み、日頃から訓練されたお二人の、柔らかな語り口調の中でも要点を外さない、見事な電話対応や訪問の報告に、「専門職だから出来る事」の力を学ばせて頂きました。

一ボランティアとしての関わりと、専門職としての関わりの違いの大きさを痛感し、現地スタッフの方を始め、皆様にご負担をおかけしてばかりで大変恐縮ではありましたが、3 泊 4 日の日程の中で石巻市のみならず、原子力発電所をもつ女川の方にも同行させていただき、被災状況や復興状況の違いも自分の目で確かめる事が出来ました。「災害は忘れた頃にやってくる」とよく言われますが、今回経験したことを、風化させることなく語り継いでいきたいと思えます。

ご多忙の中で親身にアドバイスをしてくださった久保木様・富永様・依光様始め、この活動を支える全ての皆様にご心より感謝申し上げます。

(活動期間:1 月 16 日~1 月 19 日)

*** 1/23 松下 麗子 (大阪府済生会中津病院)

1月17日から19日まで三日間、復興協議会のワーカーとして活動させていただきました。ちょうどこの週は気温も氷点下になり雪も積るなど、この地域でも珍しく強い寒波が訪れた日々となり、冬らしさを味わうと共に、身を切るような冷たい空気の中の訪問という厳しさを体験できる貴重な滞在となりました。

活動としては、要フォロー世帯に対して訪問や電話をさせていただいたり、石巻周辺から女川町まで足を運ぶ機会を設けて下さったことで、震災後の石巻を感じることができました。あれ程の大災害を受け、その爪痕はまだ至る所に残る現状でありながら、快くそして明るく私たちを受入れてくださる住民や商店の方々、サポートセンターの方と接することで、人のもつ強さやつながりの大切さを改めて感じ、私自身が支援をしているというよりも逆に勇気づけられる日々となりました。

特に、現地での活動を続けておられる依光さん、久保木さん、富永さんには、現場での支援に加え、私たちへの細やかな心配りまでしていただきました。石巻の現状やケースについての色々なお話を伺っていると、まるで自然と皆さんが長年この地で生活をされてきた方かのように感じられ、ソーシャルワーカーが災害支援として地域に入り支援を継続していく中での苦悩と醍醐味の一端を垣間見れたような気がします。また、同じソーシャルワーカーとして地域や災害支援という枠組みは違っても、目指すべきものはクライアントの利益であり、いかにクライアントが自立でき生きやすくなっていくか、そのためにはどういった支援をしていけば良いのかということと一緒に考えられたことは、何より私自身の成長にとっても大変有意義な三日間になったと感じています。

今回、短い期間ではありましたが、石巻の人々や風景、食べ物など多くの物に触れることができ、今までは大阪から遠く離れた石巻が、自分の中で少し近く感じられるようになったことで、これからも距離はありながらもその復興の過程を見守りながら支援の輪につなげていきたいと思います。そして、自分の住む地域で災害が起きれば私たちは何ができるのか、これからの自分たちがおくべき意識や今後の取り組みについて、知恵を出せるための経験としていつまでも忘れずに心に留めておきたいと思います。本当にありがとうございました。

(活動期間:1月17日~1月19日)

*** 1/26 久保木 美由紀 (現地担当)

最近石巻市ではイベントが多く開催されています。

「飲むっちゃ食うっちゃ第5弾」石巻の飲食店の魅力の再発見。

「石巻に恋しちゃった」市民による復興を応援する為企画。

石巻周辺にて、趣味や特技を持つ方々が、体感型プログラムを実施することを通じ、地域の魅力や人材の育成、地域の課題解決を図っていくものになります。どれも魅力的なプログラムで行ってみたいと思います。

また、災害時の福祉避難所拡充のニュースも出ていました。石巻市周辺の11施設と協定を結ぶとのこと。11施設は福祉施設ですが、災害時は医療ニーズも高いため医療機関との連携も必要となると話していました。

災害時に対応できるソーシャルワーカーのニーズも高まっていると感じました。

*** 1/28 依光 則子 (現地担当)

今週で現地担当者としての石巻勤務を終え、3月まで、東京の対策本部での勤務となります。皆様には石巻現地着任中大変お世話になり、ありがとうございました。

自分にも何がしかのことができる、と思つての石巻入りでしたが、被災地の現実の中で、目の前の業務をこなすのに手いっぱいのまま、10カ月。自分の未熟さ・非力さに直面し、ご関係の皆様には数多くのお手間と、多大なるご迷惑をおかけしました。

そんな中、熱い思いと意欲で石巻入りされる協力員の皆様、どんな時も頼りになる対策本部や現地の上司・同僚の方々、また、全国各地から被災地に思いをよせ、それぞれの場所からこの災害支援を支える活動をされる協会員の皆様お一人お一人のお力が、活動継続の暖かい支えだったと、改めて思います。

さらにボランティア団体の方々の強烈なパワー、そして他ならぬ石巻の方々の過酷な体験を胸に再び歩き始める力と笑顔に、深く感動する日々でした。

でも、まだまだ立ち上がれない方も、力を失った地域もあります。クライアントの意志を尊重し、その内にある力を生かす形で支えていく。クライアントに寄り添うように、被災地に寄り添う。さまざまな困難を抱えた被災地で、ソーシャルワーカーのスキルが生きるのは当然のことかと、いまさら実感しています。

私もこのあと東京からの後方支援に全力をつくしますが、同時に石巻の「交流人口」のひとりとして、今後とも関わり続けることかと思ひます。どうぞ協会員の皆様、これからもぜひ石巻へ。

交流人口が増えることで、地域の様々な支えに繋がるのはもちろんですが、何より被災地の現状を、空気感を共有したソーシャルワーカーがひとりでも増えることが、次に来る災害でより多くの人の命と生活を守ると信じます。

雪の中の石ノ森萬画館。シージェッター海斗
(ご当地ヒーロー) も雪まみれ。

— 現地石巻 photo —



***3. 災害対策本部からのお知らせ

【1.協力員募集】

***現 地

現在、1日あたり上限2~3名で募集しております。

中3日以上・なるべく平日の活動が理想的ですが、具体的な日程については、災害対策本部までお気軽にご相談ください。

***2月はまだ空いております。ご都合の付く方、ご協力をお待ちしております！

***事務所

引き続き募集しております。

平日のみの活動ですが1~2ヶ月に1回でも構いません。ご協力をお願い致します。

活動カレンダーを掲載しておりますので、ご覧ください。

【2.災害対策本部会議】

今回は、25年1月26日(土)18:00~ 協会事務所にて開催いたします。

【3.書籍販売】

『東日本大震災医療ソーシャルワーカーの支援のバトン 1』の販売を行っています。

発災から昨年9月30日までの石巻・仙台・大槌町・事務所・災害対策本部の活動の記録をまとめました。ぜひご覧になってください。尚、売上金の全額を皆様からの寄付として、本活動の資金に充てさせていただきます。

※ご注文は注文用紙で承ります。



***注文用紙はホームページからダウンロードできます。

http://www.jaswhs.or.jp/date/publishing_detail.php?@DB_ID@=45

【4.facebook】



facebook でも情報をお伝えしています。現地や災害対策本部の日々の様子をお伝えしています。応援よろしくお願いたします。

*** URL

<http://ja-jp.facebook.com/pages/公社日本医療社会福祉協会-災害対策本部/156327867812970>

【5.YouTube】

現地での災害支援活動の様子を前事務所担当の一原さんが VTR にまとめて下さいました。YouTube にアップしましたので、是非ご覧ください。「医療ソーシャルワーカー 災害支援」で検索すると見つかります。



*** URL

<http://www.youtube.com/watch?v=vn34I9h5rJ4&feature=youtu.be>

【6.現地・事務所職員募集】

災害対策本部では現地・事務所職員を随時募集しています。
災害支援に関心のある方からのご応募をお待ちしております。
または周りでご興味のある方がいらっしゃいましたら、是非ご紹介ください。

***①現地常駐者(短期契約職員)

- ・就業場所:宮城県石巻市大街道北
- ・就業時間:9~17時
※業務の関係で残業あり。
- ・休日:土曜・日曜・祝日・年末年始
- ・基本給 250,000 円/月
- ・通勤費実費支給
- ・社会保険加入
- ・医療ソーシャルワーカー業務経験必須
- ・長期の方優遇。月単位でも応相談。

***②災害対策本部事務所担当(パート職員)

- ・就業場所:協会事務局内
- ・就業時間:週3日程度 10~17時
※業務の関係で残業あり。
※頻度・時間は応相談。
- ・休日:土曜・日曜・祝日・年末年始
- ・時給 900 円~ 通勤費は実費支給
- ・経験不問。医療ソーシャルワーカー業務経験者優遇

ご応募の方は下記宛に履歴書をお送りください。面接にて決定させていただきます。

または災害対策本部までお気軽にお問い合わせください。

***お問い合わせ

住所: 〒162-0065 東京都新宿区住吉町 8-20 四谷チンゴビル
電話: 03-5366-1057
担当: 笹岡・中川

*** 4. 事務所感想文

*** 1/23 三輪 清子 (災害対策本部事務所)

1 月に入り週 1 回だけお邪魔させて頂いています。金子さんがしっかり対策本部のお仕事をしているのを見て、頼もしい限りだなあと安心しました。今日はオリエンテーション資料の作成を行いました。PC が得意な金子さんにいろいろと教えてもらいながらの作業、楽しかったです。

*** 1/25 尾方 仁 (群馬県 国立病院機構西群馬病院)

約1ヶ月ぶりのボランティアで作業を思い出すのに時間かかってしまいました。PC も新しくなり心機一転足を引っ張らない程度にお手伝いできたと思っています。

*** 1/28 金子 小夜子 (災害対策本部事務所)

事務所業務に就いてから2ヶ月になります。まだまだ迅速に対応できておりません。時の経つのだけ早く感じられます。
三輪さんは1月30日が最後になります。これからは専門分野でご活躍されることを期待します。

東日本大震災 MSW 災害支援ニュース
平成 25 年 2 月 1 日 第 2 卷 42 号
作 成 群馬県医療ソーシャルワーカー協会



上毛カルタ：©ほん（日本）で最初の 富岡製紙
(群馬県富岡市)